



# 医療や福祉の再編のため 実情を調査し、提言を行う

大学院 社会産業理工学研究所 社会総合科学域 准教授  
**土屋 敦** (つちや かつし)



施設の子供たちを喜ばせようとすだちくん  
扮する土屋先生。



## フィールドワークから 見えてくるもの

「研究というよりは社会活動です  
ね」という土屋先生。自らすだ  
ちくんに扮し、児童養護施設のお  
祭りを盛り上げる姿や、高齢者施  
設を学生と共に訪れ、介護予防の  
ための体操やゲームを楽しむ写真  
から、地域の人との信頼関係が見  
てとれます。

何度も現地へ足を運び、施設  
のスタッフや利用者へのインタ  
ビューや調査を重ねる中で浮か  
び上がる問題点を報告書にまと  
め、現状に即した医療や福祉再編  
のための提言を行う傍ら、『子供  
と貧困の戦後史』や『はじき出さ  
れた子供たち』といった社会問題  
を扱った歴史書の執筆も。人と  
人、人と制度が複雑に絡み合った  
課題を地域性や歴史から紐解き、

フィールドワークを通じて検証を  
重ねています。

## 児童養護施設への偏見 プライバシー厳守のジレンマ

土屋先生の研究フィールドのひ  
とつに児童養護施設があります。  
徳島県内では徳島市内と阿南、  
小松島に全体の7分の6くらいが  
あるようですが、認知度は低く、  
施設の子供たちに対しても「不良  
の集まり」「育ちの悪い子」とい  
った偏見をもつ人も少なからずい  
ると言います。

「施設には親から虐待を受けて  
精神的に傷ついている子もいるの  
で、その子のバックグラウンドに  
は触れないというのが鉄則です  
が、それを除けば元気なお子さん  
が多いという印象です。

本当はもっとオープンにして、  
施設の状態を知ってもらえれば  
偏見もなくなると思うのですが、  
1994年に発効された『子ど  
もの権利条約』により、施設の様  
子をホームページに載せたり、子  
供の写真を撮ることができなく  
なったんです。そのため、どうい

う子がいて、どんな生活をしてい  
るのが一般に見えづらくなって  
います。

隔離されているわけではありま  
せんが、子供たちのプライバシー  
厳守のため、情報が制限されるこ  
とで、周囲の理解が進まないとい  
うジレンマを感じます。

## 大学生は夢を描ける ロールモデル

土屋先生は児童養護施設へ研究  
室の学生たちを連れて行き、積極  
的に子供たちと一緒に遊ばせると  
言います。

「大学生は施設の子供たちに



「年に1回お祭りがあり、教育委員会の人や地域の人を  
お招きして、理解を深めてもらう機会にしています。施設を  
学生に見せたり、職員さんにもヒアリングができるチャンス  
でもあります」。

とつて貴重な存在。施設の子の大  
学進学率は10%程度。子供の貧困  
問題も大きな論点ですが、それ以  
前に自身の将来を描きづらいこと  
が問題。子供たちは様々な事情を  
抱えているため、勉強に集中でき  
なかつたり、勉強する習慣自体が  
ない子もいます。『あんな風にな  
りたいな』『こんな選択肢もある  
んだ』と思える身近なロールモデ  
ルが大学生。中には遊びだけでな  
く、学習ボランティアとして勉強  
のサポートを行う大学生もいます  
が、そうした子も含めて、自分の  
ために毎回来てくれる人がいる、  
ということが、子供たちにとって  
とても大切なのです」。

## 里親制度と児童福祉施設 メリット・デメリットの 再検証を

家庭での養育が困難な場合、子  
供は里親が引き取るのが一般的と  
思っている人も多いのではないで  
しょうか？

「日本は欧米に比べて、施設率  
がスゴく高いんですね。約85%が  
施設、里親は15%くらい。イギリ  
スだと9割が里親で施設は1割程  
度。世界的な見地からはアメリカ、  
イギリス型の児童福祉のシステム  
が良しとされているので、『日本  
は子供の人權に配慮したケアがで  
きていない』と、国連から勧告を  
受けているんです」。

施設はダメで、里親がいいとい  
う単純な問題ではなく、それぞれ  
のメリット・デメリットを併せて

もう一度見直す必要があると土屋  
先生は言います。

「施設の職員は親代わりにはな  
れないかもしれませんが、集団の  
中で生活するメリットは大きいと  
いう意見もあります。

1人のお子さんに対して複数の  
職員さんが常駐しているので、い  
ろんな角度でケアできる良さもあ  
る。もちろん里親の所にいくとい  
いこともたくさんあるんですが、  
欧米に倣うにしても、もうちょっ  
と調査しないと判断しかねます  
ね」。

現在、ファミリーホームという  
預かる子供の人数が上限6人と  
いった小規模な施設が、対面的な  
やりとりもしやすいため、県内で  
も増やしていこうという動きはあ  
るのだとか。まだ1カ所しかない  
そうですが、そこを応援していき  
たいと言います。

## ボランティアには誰でも 参加OK できるNPOをできる範囲で

こうした児童養護施設の他に高  
齢者福祉の活動にも携わり、介護  
予防のため高齢者が集まり、体操  
をしたり、脳トレを行う『いきい  
きサロン』のサポートも行ってい  
ます。

高齢者は一人で引きこもりがち  
な人が多いため、そこへもまた学  
生と共に参加しています。

「徳島は医療や福祉に関しても  
エリア格差が大きい。徳島市内は  
比較的医者や介護士の数が多いん  
ですが、とても偏在していて、南  
や西に行くとな変な状況になっ  
ている。

だから単純に学生を連れて行く  
だけでもとても喜ばれるし、そこ  
できちんと調査をして、提言を  
行っています」。

こうした社会問題に興味を持つ  
ている人は、施設のイベントやお  
祭りに参加してみるといいのだそ  
う。

「施設では地域と関わりをもち、  
一般の方々にも施設のことを知っ  
てもらおうと年に1回、お祭りや  
イベントを行っています。そこへ  
行ってみて、何かしたいと思っ  
たら、ちょっとお手伝いをする、  
ボランティアでもいいですよ。1  
カ月に1回でもいいし、毎回行  
かなくてもいい。

そういう風に支えてくださる可  
能性のある方がいると思うだけ  
で、スタッフや職員の力になるこ  
とがあると、覚えておいてもらえ  
たらいいと思います」。



土屋先生が執筆した歴史書。『子供と貧困の戦  
後史』や『はじき出された子供たち 社会的養護  
児童と「家庭」概念の歴史社会学』など。児童養  
護施設は第二次世界大戦の時に親を亡くした戦  
災遺児を育てるために始まった。『子供と貧困の  
戦後史』にはその歴史が書かれている。



施設でのインタビューやアンケートをまとめた調査  
報告書。「職員さんは自分の施設については詳  
しいですが、他の施設と比べてどうい特徴があ  
って、どういう難点があるということにはわかり  
ないので、調書をもとにお知らせしています」。



介護予防のため、高齢者と共に折り紙など手先を使う遊びを楽しむ学生たち。